

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	(有) プーク人形劇場	
施 設 名	プーク人形劇場	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	8,270	(千円)
公演事業	3,979	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	4,291	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形劇団プーク「12の月のたき火」	2018/12月15～27日	「12の月のたき火」 演出：岡本和彦 音楽：長澤勝俊 出演：佐藤達雄・柴崎喜彦・早川百合子 他	目標値	1,040名
		プーク人形劇場		実績値	1,221名
2	人形劇団プーク子どもの劇場「もりのへなそうる・ふしぎな箱」	2019年1月2～6日 3月21～31日	「もりのへなそうる」演出：伊井治彦 「ふしぎな箱」演出：竹内とよ子 出演：小立哲也・滝本妃呂美 他	目標値	1,520名
		プーク人形劇場		実績値	1,733名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,560名
				実績値	2,954名

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	海外特別公演「三銃士」	2018年7月27～30日 8月10・11日	チェコ共和国・アルファ劇場 演出：トーマス・ドヴォルザーク 出演：マルティン・バルトウシェク 他	目標値	2,620名
		新宿高島屋JR口会場 プーク人形劇場 他		実績値	4,513名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,620名
				実績値	4,513名

【妥当性】

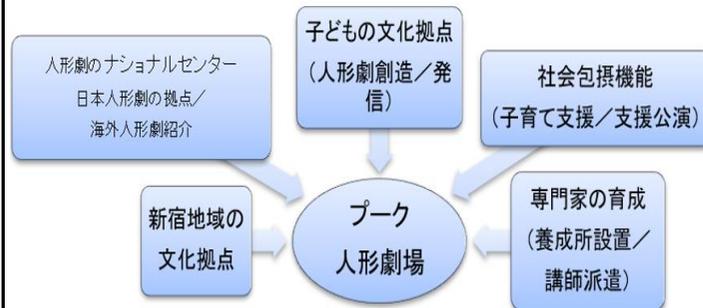
自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

＜社会的役割＞

「プーク人形劇場」は日本で初めての人形劇専門劇場として1971年に開設。年間約300日が稼働。利用者は延べ20,000人。（資料①プーク人形劇場 来場者地域別内訳）人形劇のみならず全国のあらゆるジャンルの方々に利用される、豊富な実績と経験を有する劇場である。

プーク人形劇場の＜ミッション＞（資料②）



資料 ③プーク公演年表 ④近年公演実績 ⑤海外人形劇シリーズ年表

⑥日本ウニマ・人形劇人協会 ⑦地域の文化拠点 取り組み例

【特性とニーズ】（資料⑧）

1. 文化的需要の高い新宿駅周辺であること
2. 様々な劇場文化を有する地域であること
3. 子供関連施設の不足と都内劇場減少問題

（資料）

資料⑨-A JTB総研「H28劇場に係る調査分析」

資料⑨-B 上記資料内「子どもにライブ～（略）」

資料⑩ 「2016問題」

【強み・特色】（資料⑪）

1. 新宿駅から徒歩8分
資料⑨-C 「劇場へ期待すること」
2. 新宿副都心の「子どものための劇場」
3. 世界の一流人形劇場に比肩する、専門劇場
資料⑫ 「劇場機構」（舞台写真）
4. 人形劇へのニーズの高まり

＜事業内容＞ 事業概要の通り

＜事業実施状況＞

全事業通じ大きな変更なく総じて当初計画通りに進められた。比較的大きな変更と思われる点は以下の通り。

1. 「もりのへなそうる・ふしぎな箱」（1月「お正月公演」）
当日チケット料金を2700円に引き下げを計画していたが、通常通りの料金（3130円）へと変更した。90周年記念年間の年始公演として、より付加価値の高い公演活動を行った。
2. 「三銃士」新宿高島屋会場における公演回数の変更（6stから5stへ）
関連事業として、高島屋会場において国際フェスティバル（A-hoj!新宿）を開催した。同会場でのプログラム数が20へと大幅に増加したため、「三銃士」公演を6回から5回へと変更。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

＜文化的・社会的・経済的意義＞

プーク人形劇場は、子どものための公演を年間通じて行っている都心でも数少ない劇場である。劇場から生まれた作品は、全国の子供も園、小・中学校・劇場へと巡回している。各地からの期待とニーズが高く、全国からの来場者がある。

これらの期待とニーズに応え、「子どもの劇場」公演として年間通じた子どものための文化プログラムの充実を図る【公演事業】と、世界の至宝ともいえる海外作品を紹介することで、人形劇芸術の楽しさと無限の創造的可能性を伝える【普及啓発事業】と各事業の役割を位置付けた。

また、各地の演劇鑑賞会の役員、教育関係者など、全国から多くの来場者があり、（資料⑬H30事業来場者地域内訳）、今後への巡回公演への展開が期待される。プーク人形劇場は、新宿副都心に立地し利便性も高い。豊富な実績と経験を資源に、市民の潜在的な要求を汲み上げ、より一層多くの方に芸術体験を届けることが出来たと実感している。

（資料⑭「共通の目標値と実績値」）

【公演事業】

【共通の目標値】 2017年12月要望時

入場者・参加者数	入場者・参加者率(%)	※収益率(%)
2,560	80%以上	52%

【公演共通実績】

2019/4/15【確定報告】

入場者・参加者数	入場者・参加者率(%)	収益率(%)
2,954	89.51%	57%

【普及啓発】

【共通の目標値】 2017年12月【要望時】

入場者・参加者数	入場者・参加者率(%)
2,620	80%以上

【普及啓発実績】

2018/10/25【確定報告書】

入場者・参加者数	入場者・参加者率(%)
4,513	157.00%

入場者は立ち見客を含む。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

<目標>

【公演】子どもの文化発信拠点としてプログラムの充実を図る。(資料③④)

【普及啓発】世界トップクラスの海外作品を紹介し、人形劇芸術の魅力を広げる。(資料⑤⑥)

<目標と達成状況>

子どもの発達段階に適した作品鑑賞と、家族そろっての劇場体験は、子どもたちの健全な成長を願う発達した文化社会にとって、不可欠な環境である。

しかし、都内において年間通じて良質な文化の発信を続ける劇場は少ない。また、少子化問題に伴い、公演回数の減少と小型化が進むといった状況もある。

このような状況の中、プーク人形劇場は、親子で実演芸術を体験したいとする潜在的な要求(資料⑨⑩⑮ JTB/東京都報告書)を汲み上げ、高い芸術性を有する作品の公演を通じ、新規鑑賞者の開拓と、リピーターの育成を目標として、その達成状況を測るため、以下の数値【指標】を設定した。

【指標】(調査方法:チケット予約からの顧客情報集計と、観劇後のアンケート集計)

【1】「観客動員数」(資料⑯⑰) 動員数・率と有料入場者割合を、これまでの数値と比較・検証。

全事業を通じて目標を大きく上回り、動員率も8割を超えた。採択の一番の効果は、「社会的信頼」の獲得と捉えている。その効果を十二分に活用し、地域企業・商店会とも協働しての広報活動を強化した結果が表れている。

【2】「観客動向・満足度」アンケート回収率、アンケート内容からの検証。

新規来場者は4割を超えた。(資料⑱)。東京近郊からの来場者の割合が比較的高く(資料⑬⑲)、広報宣伝効果が、近郊地域の新規来場者として表れたと推察できる。また満足度も高く(資料⑳)、アンケート回収率も2割を超えた。

この結果から推察すると、全事業を通じて目標を達成し、極めて有効的な事業であったと自己評価している。(資料⑬⑯~⑳)特に【普及啓発事業】「三銃士」は、昨年度の10倍以上の来場者があった。ニーズの高さと、プーク人形劇場の実績と経験が顕著に表れた結果と捉えている。

【地域連携】

半券チケットサービス(近隣飲食店とのサービス提携)の回収枚数の比較。

(資料 回収枚数の推移: H29年度=28枚 H30年度=86枚 前年度比3倍増 協力店舗も3店増加。)

地域振興の経済的効果の側面よりも、利用者が観劇後に豊かな時間を過ごした実数。

資料⑯ 【普及】(近年同種事業 観客数)

年・月	作品	会場	定員	ST数	入場者	入場率(%)
2015・10	Go!	プーク人形劇場	100	4	424	106
2016・9	クレドシアター	プーク人形劇場	100	4	400	100
2017・8	Mathilde	プーク人形劇場	100	5	446	89.2
2018・8	三銃士	プーク人形劇場	85	4	364	107.05
2018・7	三銃士	高島屋会場	300	5	3,923	261.5
2018・7	三銃士	チェコ大使館	110	2	226	102.72
三銃士 3会場合計				11	4513名	

東京都助成事業
ネットワーク事業のみ
2017年度普及啓発事業

【公演】人形劇団プーク「子どもの劇場」近年同時期公演 観客数比較 資料⑰

	演目	新・再	日数・ST数	総入場者数	有料数	招待	入場率	有料率	アンケート数	回収率	満足度
H27年11月・H28年3月	ハリネズミと金貨・霧と風からきいた話	新	18日 29st	2,415	2,156	259	83%	74%		記録なし	
H28年11月・H29年3月	ひとまねアヒル・ゆうびんやさんのお話	再	20日 28st	2,085	1,885	200	74%	67%	166	7.96%	80%
H29年11月・H30年3月	くまの子ウーフ・がんばれローラー君	再	20日 28st	2,339	2,135	204	83.5%	76%	538	23%	85%
H30年12月	12の月のたき火	再	7日 13st	1,222	1,116	106	93.92%	85.84%	269	22.01%	85%
H31年1月・3月	もりのへなそうる・ふしぎな箱	再	20日 20st	1,733	1,579	154	86.65%	78.95%	464	26.77%	87%

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間】

「公演事業」計画通りに実施

「普及啓発」7月30・31日 チェコ大使館 → 7月30日（2st）に変更

（変更理由）

同公演の国内巡回公演（関連事業：「三銃士」日本ツアー公演 12会場 31ステージ）の拡大に伴い日数を効率化。二日間2ステージから、1日・2ステージに変更。

家族そろって芸術鑑賞ができるよう、「夏休み」・「クリスマス」・「お正月」・「春休み」に事業を計画し、ほぼ計画通りに遂行した。

本事業は、多くの方に優れた芸術体験を届けるべく、一年を通じて特別に好条件な時期を設定した。芸術体験を躊躇する理由として「時間がない」ことを上げる方が多いとする報告（資料⑨-D「非鑑賞理由」）もある。この点において、参加者数が増加している結果から検証しても、本事業は、適切な時期を設定した効率性の高い取り組みであったのではないだろうか。

また、【普及啓発事業】では、近隣で開催される文化イベント＝「夏休み児童・青少年演劇フェスティバル」（期間：7月21～8月12日）「子どもと舞台芸術大博覧会」（期間：7月27日～8月1日）を考慮に入れ、連携が出来るように設定した。本事業の作品「三銃士」は、海外大型人形劇の公演として、上記の国内演劇祭のすぐ近くで開催される「国際プログラム」として注目を集めることにも成功した。近隣の二つの演劇祭にも集客力を高める効果を与え、双方に相乗効果を与えた。

【事業費】

事業予算と決算を比較すると、収入予算比2.3%の増、同じく支出は1.3%増となっており、ほぼ予算通りに実行している。観客数の増加により収入が若干上がり、収益率の改善がみられる。（資料⑳「事業収支予算決算対比表」）

（特筆点）

「公演」観客動員増により、直接的にチケット収入が増加した。特に「もりのへなそうる」公演は、「お正月」「春休み」の時的効果もあり、チケット単価が高い券種の割合が比較的多く、新規来場者の獲得にも成功したことが伺える。

（資料⑱B「へなそうる」来場回数 資料㉑「12の月」「へなそうる」券種比較）

「普及啓発」当初予算より収支共に若干スリム化した。ただし、収支の減少幅は（収入4.8%減 支出2%減）同一ではない。これは、暑さ対策のための機材借用費（冷蔵庫・スポットクーラー等）を予算計上していなかったことが一因として考えられる。今後の取り組みに向け、これら暑さ対策のための費用が助成対象経費となるかの確認を進め、的確に予算化することが必要となる。

【2018年度 地域の中核 予算決算対比表】

資料㉑

		要望時予算	申請時予算	要望時からの 変動率①	決算	申請時からの 変動率②	要望時からの 変動率③
公演事業① 「12の月」	総収入	3,255	2,912	89.4	3,105	106.6	95.3
	総支出	5,760	5,950	103.2	5,813	97.6	100.9
公演事業② 「へなそうる」	総収入	3,591	3,752	104.4	4,287	114.2	119.3
	総支出	5,783	6,000	103.7	6,219	103.6	107.5
公演総計	収入	6,846	6,664	97.3	7,393	110.9	107.9
	支出	11,543	11,951	103.5	12,034	100.6	104.2
普及 「三銃士」	総収入	5,500	5,790	105.2	5,241	90.5	95.2
	総支出	10,010	10,347	103.3	9,812	94.8	98.0
公演・普及	合計収入	12,346	12,454	100.8	12,634	101.4	102.3
	合計支出	21,553	22,298	103.4	21,846	97.9	101.3
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(%)

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

<ブーク人形劇場の資源>

- ・「子どものための文化拠点」として 年間通じて優れた作品を創造発信する豊富なレパートリーがあり（資料③⑤）、国内外の人形劇に関するあらゆる情報が集中する国内随一の拠点である。
- ・人形劇の専門劇場として、あらゆる人形劇の形態に対応した劇場機構がある。（資料⑫）

・受賞歴（資料⑳ 主な受賞歴）

（団体）平成24年 第52回「久留島武彦文化賞・団体賞」

渋谷区よりH27年度「優良商店主」として表彰。

（個人）第28回0夫人青少年演劇賞 小柳田美子（前世界ウニマ副会長 現在も国際交流事業を担当）

H12年度 日本児童演劇協会個人賞 滝本妃呂美（「もりのへなそうる」出演）

他作品受賞歴多数

- ・日本人形劇場ネットワーク：全国の劇場・実演団体と、「劇場」として役割からの連携を進める。（資料㉒ 劇場ネットワーク構築実績）

他 劇場掲載記事（資料㉓）

<公演企画の内容・芸術性>

【公演】「12に月のたき火」平成23年度厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化財特別推薦

「もりのへなそうる・ふしぎな箱」（資料㉔ 劇評）

【普及啓発】「三銃士」（チェコ・アルファ劇場）2006～2012年の間に22の受賞と2のノミネート（資料㉕ 三銃士受賞歴）ユネスコの世界遺産にも認定されているチェコの人形劇は、もともとは民衆文化から生まれ、伝統的に路上で演じられていた。アルファ劇場は、チェコ最大のフェスティバルをピルゼン市と共同主催するなど、欧州を代表する優れた人形劇場である（資料㉖アルファ人形劇場概要）。

日本では紹介が遅れている、トップクラスの欧州人形劇団の招聘となった。（資料㉗「三銃士」日本公演劇評）

これらの優れた企画性から、地域企業・劇場、地域商店会・町会からの協力を頂き、新宿駅に隣接する屋外特設会場でも実施。これまでにない規模の参加者を獲得した。（資料㉘会場の様子写真）

「三銃士」2018年7～8月



「12の月のたき火」

「もりのへなそうる」



地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

<新宿の文化拠点として>

【公演事業】では、プーク人形劇場の舞台機構を存分に発揮した作品を公演し、上演後も、各地より公演依頼が届いている。事業の成果が全国に広がっている事を実感している。

一方で、劇場に足を運び舞台芸術を享受している人と、普段劇場に行くことが出来ない人との格差は大きく、地域間格差・経済格差による文化格差が課題となっている。（資料⑩振興会報告書）

そこで【普及啓発事業】では、地域の複数の民間劇場・企業からの協力を頂いたことにより、新宿駅に隣接する屋外特設会場での展開が実現した。地域商店会・町内会など、普段芸術文化に直接携わらない方々とも協働し、当日は黒山の人だかりとなる程の盛況ぶりであった。（資料⑪）

また、産業通産大臣による「プレミアムフライデー」の実施状況の視察の視察とも重なり、事業実施後には、新宿高島屋開業以来最高の参加人数のイベントであったとの報告があった。各共催者、地域企業からも、「来年もぜひお願いしたい」との評価を頂いた。地域の文化拠点としての劇場の役割を改めて再認識する有意義な機会となった。

（資料⑩会場の様子（写真））（関連事業「A-hoj新宿」アート体験！国際フェスティバル）（資料⑦「A-hoj」チラシ、資料⑪ 観客集計）

<工夫・戦略>

「三銃士」高島屋会場の他、チェコ大使館でも無料公演を行ったほか、関連事業として多言語型巡回公演として「三銃士」日本ツアーを行った。全国の人形劇場とのネットワークを活用し、国内12会場において、世界最高峰の作品鑑賞の機会を創出した。（関連事業「劇場音楽堂間ネットワーク強化事業」資料⑭）

事業後「ヨーロッパの人形劇アーティストたちが真に対象とする観客層に届けることができた。」との、アルファ劇場 代表者 ヤクブ・ホラからのコメントを頂いた。

<ミッション>（資料②）【子どもの文化拠点】【日本の人形劇センター的役割】として、新宿地域と、日本の文化拠点としての役割を発揮できたのではないだろうか。

<各協力（支援）団体（者）とのコミュニケーション方法>

- ・事業協力関係団体へ報告書を送付（資料⑳「プーク人形劇場国際交流事業活動報告書2017～2018」）
- ・「みんなとプーク」（年4回発行）の送付（資料㉓）
- ・露出記事一覧（資料㉔）
- ・立地の利便性（資料㉕「マップ」）



【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

<PDCAサイクル>

各事業終了後には、協力を頂いた関係者・団体それぞれと報告会（反省会）を開き、実施状況と成果、改善点を検討（資料⑳）し、次年度の活動計画に活用している。

また、人形劇団プークは、「人形劇団プーク 統一総会」（プーク人形劇場・劇団プーク・スタジオ・ノーヴァ3社が参加する。株主総会）を年3回開き、活動方針・活動報告・予算・決算を討議している。これらの計画・実施・検証・改善を積み重ね、企画創造性を進化させた事業展を切れ目なく継続させている。

【普及啓発】【公演】公演日・回数 近年の推移（資料㉔㉕）

「公演」については、演目数が若干増加傾向にありながら、上演日数・ステージ数は減少傾向にある。少子化問題に伴う、実演団体の公演回数の減少、小ぶり化の状況がプークにもあてはまる。そのため「公演事業」において、PDCAサイクルによる検証を一層進め、観客動向を詳しく把握した上で、新たな観客層の獲得に向けて、本事業を一層充実させていくことが求められている。

一方これを補う形で、「普及啓発型（海外・伝統）公演」が増加している。劇場資源を活用し、優れた企画発信を続けることで、劇場ネットワークも強化してきた結果と捉える。

また、劇場活動に共感し、自ら門をたたき新規採用者が増えている。雇用計画は2017年要望時通りに進んでいる。歴史ある活動を、年配者の経験を活かしつつ次世代に繋いでいく。

<雇用の推移>（資料㉔「正規雇用者数の推移」）

<人材育成>

（国際ネットワークと人材交流） ソフィア人形劇場との人材交換プログラムを実施。プーク人形劇場より石田律子を派遣した。人材交換は、派遣者自身はもちろん、周囲のスタッフのモチベーションも高め、共同制作公演をより確かなものとする効果的なプログラムとなった。今後も豊富な国際交流実績の基実現した取り組みとなった。（資料㉕）

また2018年10月～12月には、チェコ・アルファ劇場へ構成員を派遣。新たな共同プロジェクトとして「A-hoj（アホイ）！2020」を準備中である。

<劇場ネットワークの構築>

連携劇場の拡大実績は、資料㉔を参照。

<劇場改修実施状況>

次の世代の子どもたちへ譲り渡していくため、建物管理営繕も欠かせない。2019年度には、外壁修繕などの大規模改修工事（2019年9月～11月）を行う。

資料㉔ 雇用者数の変化（H30年「要望書」より転記） 2017年 11月

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
2012年	0	0	0	1	4	0	5
2014年	0	1	1	0	4	0	6
2016年	1	0	2	0	4	0	7
2017年現在	1	1	2	0	3	1	8
2020年目標	2	2	2	1	1	2	10

正規雇用者数の推移 2019年4月1日現在

(4月1日時点)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	新規雇用
2013年	0	0	0	1	4	0	5	0
2014年	0	1	1	0	4	0	6	2
2016年	1	0	2	0	4	0	7	1
2017年	1	1	2	0	3	1	8	1
2018年	1	1	2	0	3	1	8	0
2019年	1	1	3	0	3	1	9	1
2020年(目標)	2	1	3	0	1	3	10	(1)